令和２年12月21日

◆　涙の向こう側にあるもの　◆

最初はタイトルを“悔し涙の…”にしようと思った。

試合終了後，集まってくれた選手の目には涙…。一人一人の目を見ながら思った。待てよ，これは一括りに“悔し涙”で語れるものではないな。

部活動に大きくのしかかるCOVID-19。様々な競技種目で幾重もの対策を施し，新人戦が行われている。そんな中，「さわやかマナーアップキャンペーン」でもお世話になったハンドボール部の男子初戦を見に行った。

前半は新チームでの初陣ということもあり，だいぶ固くなった試合展開となった。攻めきれず，パスミスも散見する。ハーフタイム，監督のK先生は生徒たちを一度会場から出した。K先生がどのような指示をしたのか，生徒たちがそれをどのように聞いていたのかはわからない。が，後半は見違えるほど動きが良くなっていた。お互いに選手間のコミュニケーションもとれるようになっている。ゴールも決まりだし，互角の試合展開となった。後半だけで見れば同点である。しかしながら競技である以上，勝敗はつきもの。前半の得点差が効いての敗戦。そして冒頭のシーンへと繋がる。

実は試合前にも生徒に話した。いつも言っていること。

「人との出会いを大切に　感謝の気持ちを忘れずに　苦しいときこそ頑張る」

この状況下，試合ができることへの感謝を忘れないようにしよう，どんな試合でも楽なことはない，苦しいときこそどれだけ踏みとどまれるかやってみよう…と。

藤代紫水高校の校長室からは，ハンドボールコートがよく見えた。

生徒たちは，愚直にひたすら同じことを繰り返していたことを思い出す。

今度は君たちの番だ。凍てつくこの冬にどれだけ自分を鍛えることができたかが次の成長に繋がる。春の植物の芽吹きはこういうことを教えてくれる。今回の一人一人の“涙”がどのような意味のものであったのか，よく見つめ直して欲しい。その頃このメンバーがどのように育っているか，楽しみに待ちたいと思う。